

昔から農家や地域で大切に守られてきた多くの伝統農産物や特産農産物等を皆さんに知ってもらい地域農業の振興に役立ててもらうための特集を行っています。今回は「有機栽培で作るニンジン」です。



有機栽培で作るニンジン
ニンジンには、ビタミンB、カロテンが豊富で、カロテンの呼称がニンジンの英語名である「キャロット」に由来するように、ニンジン

による「ニンジン」栽培
口に入る物だからこそ農薬に頼らず、安全に栽培したいという強い思いを持って日々、有機農法に励んでおられます。
取量・品質等、有機ならではの課題も多いようですが、情報を共有し、土づくりにこだわり、栽培技術の確立や品質・作業効率を向上させ、今後はメンバーを増やし生産面積を拡大させたいとの事でした。

きばっとななる人らあ ④

このコーナーでは、地域で頑張るみなさんを紹介しします。

TAJIMAネギマッチョ (但馬新ブランド白ネギ)
冬の厳しい豊岡で新規就農者の収入安定を目指すため、秋冬どり白ネギの栽培に取り組み始めたのをきっかけに、平成30年に豊岡の若手農家5名(うち3名は豊岡農業スクール卒業生)で「ネギ人生産組合」が結成されました。



メンバー紹介 前から 鎌田頼一さん 小川恭弘さん 能勢明宏さん 田中一成さん 三上裕也さん

Advertisement for YANMAR featuring a tractor and the text 'スマート農業加速。CHANGE! 新しい農業をご提案します。' and '松井農機商会'.

竹野全地区 (竹野地域)



農地パトロールの様子

竹野地域は、床瀬谷・三原谷を擁する竹野南地区、漁業・観光との両立を図る竹野地区、両地区に挟まれた中竹野地区の3地区で形成されており、古くから竹野川と三椒川を原水に稲作を営んできました。

この現状を打開するため、竹野地域においては、竹野南地区で平成30年、地域コミュニティ「わいわいみなみ」と連携し、「竹野南営農組合」を設立して遊休農地の増加防止を図り、地域おこし協力隊員による新規就農等により竹野南地区水稲作付面積約60haのうち2ha程度



井垣推進委員 竹野南地区



山根推進委員 中竹野・竹野地区

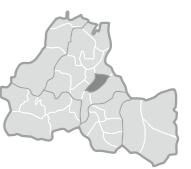


瀧下農業委員 竹野地域

中竹野地区では、認定農業者と地権者との仲介役としての活動活発化により、林・轟地区等を筆頭に稲作及び野菜栽培で遊休農地の解消に取り組んでいます。
また、竹野地区では、後継者育成(農業法人・集落営農組織の設立)を睨んだ、大規模農業実現のための圃場整備取組に関し、有志の皆さんへの「圃場整備を考

える会」の設立助言や水利組合内組織としての「圃場整備委員会」への格上げ等の助言・連携を強化して農業を将来に引き継ぐ活動を就農者とともに取組んでいます。
私たち農業委員会メンバーは、竹野地域をパトロールし、関係者の皆さんから現状を聴取して厳しい農業環境を一層認識しました。
前述の竹野各地区の活動を継承するとともに発展させ、地権者・耕作者そして就農希望者等に農業の大切さを訴えて農地と農業を就農者の皆さんとともに守っていきたく思いますのでよろしく願っています。
(推進委員 山根秀次)

新田地区 (豊岡地域)



飛来したコウノトリ

新田地区は、六方たんぼのまわりに8つの地区があります。百合地営農組合、河谷営農組合、中谷農事組合法人と3つの法人が設立され、主に水稲の作付けを行っており、また転作作物として麦と大豆が作られています。
一年中コウノトリが飛来



松岡推進委員 新田地区



栗原農業委員 豊岡地域



平峰農業委員 豊岡地域

今後高齢化が進む中、遊休化していく農地をいかに有効利用していくか、後継者不足をどうするかなどが課題かと思えます。
4月から農地利用最適化推進委員になり、まだわからないことばかりですが、地域の皆さんとともに遊休農地の解消に取り組んでいきたいと思っています。
(推進委員 松岡正人)

する姿が見られ、春にはケリなど野鳥が子育てし、冬は冬期湛水によりハクチョウがやってきます。
六方たんぼの耕地利用率はほぼ100%ですが、集落のまわりの畑には、遊休農地が年々増えつつあります。水稲栽培に比べ畑での野菜の栽培には手間がかかります。